

男性も抱え込まず相談を

性的虐待などを受けた男性が悩みを打ち明けられる、数少ない相談施設が神戸市中央区にある。運営するのは、カナダでカウンセラーの経験を積んだ山口修喜さん(35)。開設から1年たつが、性被害を受けた男性の心のケアを専門とした窓口は珍しく、関西だけでなく、九州や東北などからも相談があるという。

(辻阪光平)



↑ オフィスの名前の由来になった愛犬「ボム」とともに、カウンセラーとして話す山口さん(神戸市中央区)＝柳田直也撮影

昨年12月に、山口さんが自宅に開いた「カウンセリングオフィスPommu」。誰にも言えず、ひとり苦しんできた男性たちの思いを受け止めて、不安を鎮め、リラックスするコツなどを伝える。現在、生活保護受給者も含め、20～60歳代の15人を継続的にケア。学生時代など過去に受けた性的ないじめの被害に苦しみ続ける人も多いという。

山口さんは、「こうした場合

心のケア施設 山口さん「ひとりで闘わないで」

があると知っただけで生きていける。そう語った人もいます」という。

大阪市出身の山口さんは、競技スキーの選手を目指して高校を中退。米国に留学して夢を追ったが、20歳で挫折した。一時帰国し、自らを見つめ直してカナダに渡り、大学で心理学を専攻。大学院に進み、カウンセラーの実務研修で訪れた先が、男性性被害者の支援機関だった。「そこで初めて過酷な実態を知りました」と振り返る。

多くが、幼い頃に頼れるはずの義父や教師、スポーツ指導者らから虐待された記憶に悩んでいた。「男性に襲われた自分は、男じゃないのかも」との戸惑いから、女装したり、性転換を試みたり。女性を愛したくても、うまく関係が築けず苦しむ男性もいた。「つらさから逃れるために仕事一

色の生活に自分を追い込む人や、酒や薬に溺れ、何度も自殺を図る人も少なくなかった」と話す。

研修後も施設にとどまり、約5年間で約100人と面談。3年前に同国ブリティッシュ・コロンビア州公認の心理カウンセラーにもなったが、「支援態勢が十分ではない日本で貢献したい」と考え、昨年、帰国。オフィス開設の準備を進めた。

山口さんは、「もうひとりで、孤独に闘わなくてもいい」と、相談を呼び掛けている。初回の電話カウンセリングは50分間無料。面談し、必要に応じて山口さんの愛犬たちと過ごすアニマルセラピーも行う。問い合わせは同オフィス(090・9622・4848)へ。メール(info@pommu.jp)でも受け付けている。

性的虐待・DV被害 女性だけじゃない

配偶者や恋人からの暴力(DV)など、性暴力の被害を受けた男性は、確実に存在している。刑法は、強姦罪の被害者を「女子」に限定しているが、警察庁資料によると、

昨年起きた強制わいせつ事件(6870件)の2%の被害者は男性だ。

また、性暴力やDV被害者のために内閣府が昨年2～3月に初めて実施した無料電話相談「パープルダイヤル」でも、女

社会の認識変える契機に

性からの相談1万3789件に對して、男性からも1378件が寄せられた。被害者の中でも、男性は「少数派」のせい、ケアの必要性は「男は被害に遭うわけがない、遭っても傷つくはずがない、たとえ傷ついても支援はいらない、という意識が社会に根強くある」と指摘。山口さんの取り組みについて「専門の相談施設が存在が、社会の認識を変えることにもつながるはず」と期待を寄せた。

について理解がすすんでおらず、男性に特化した支援団体や自助グループはわずかしかな。性被害を乗り越えて生きる男性サバイバーとして、講演などの活動をしている玄野武人さん